

イ	三〇一	一 羅三二一節六
ロ	三〇二	二 何四二節一〇三
ハ	三〇三	三 約七〇三
ニ	三〇四	四 羅〇三節二
ホ	三〇五	五 羅〇三節二
ヘ	三〇六	六 羅〇三節二
ト	三〇七	七 羅〇三節二
チ	三〇八	八 羅〇三節二
リ	三〇九	九 羅〇三節二
ル	三一〇	一〇 羅〇三節二
レ	三一〇	一一 羅〇三節二
ヌ	三一〇	一二 羅〇三節二
フ	三一〇	一三 羅〇三節二
ク	三一〇	一四 羅〇三節二
コ	三一〇	一五 羅〇三節二
サ	三一〇	一六 羅〇三節二
シ	三一〇	一七 羅〇三節二
ス	三一〇	一八 羅〇三節二
セ	三一〇	一九 羅〇三節二
ソ	三一〇	二〇 羅〇三節二
タ	三一〇	二一 羅〇三節二
チ	三一〇	二二 羅〇三節二
リ	三一〇	二三 羅〇三節二
ル	三一〇	二四 羅〇三節二
レ	三一〇	二五 羅〇三節二
ヌ	三一〇	二六 羅〇三節二
フ	三一〇	二七 羅〇三節二
ク	三一〇	二八 羅〇三節二
コ	三一〇	二九 羅〇三節二
サ	三一〇	三〇 羅〇三節二
シ	三一〇	三一 羅〇三節二
ス	三一〇	三二 羅〇三節二
セ	三一〇	三三 羅〇三節二
ソ	三一〇	三四 羅〇三節二
タ	三一〇	三五 羅〇三節二
チ	三一〇	三六 羅〇三節二
リ	三一〇	三七 羅〇三節二
ル	三一〇	三八 羅〇三節二
レ	三一〇	三九 羅〇三節二
ヌ	三一〇	四〇 羅〇三節二
フ	三一〇	四一 羅〇三節二
ク	三一〇	四二 羅〇三節二
コ	三一〇	四三 羅〇三節二
サ	三一〇	四四 羅〇三節二
シ	三一〇	四五 羅〇三節二
ス	三一〇	四六 羅〇三節二
セ	三一〇	四七 羅〇三節二
ソ	三一〇	四八 羅〇三節二
タ	三一〇	四九 羅〇三節二
チ	三一〇	五〇 羅〇三節二
リ	三一〇	五一 羅〇三節二
ル	三一〇	五二 羅〇三節二
レ	三一〇	五三 羅〇三節二
ヌ	三一〇	五四 羅〇三節二
フ	三一〇	五五 羅〇三節二
ク	三一〇	五六 羅〇三節二
コ	三一〇	五七 羅〇三節二
サ	三一〇	五八 羅〇三節二
シ	三一〇	五九 羅〇三節二
ス	三一〇	六〇 羅〇三節二
セ	三一〇	六一 羅〇三節二
ソ	三一〇	六二 羅〇三節二
タ	三一〇	六三 羅〇三節二
チ	三一〇	六四 羅〇三節二
リ	三一〇	六五 羅〇三節二
ル	三一〇	六六 羅〇三節二
レ	三一〇	六七 羅〇三節二
ヌ	三一〇	六八 羅〇三節二
フ	三一〇	六九 羅〇三節二
ク	三一〇	七〇 羅〇三節二
コ	三一〇	七一 羅〇三節二
サ	三一〇	七二 羅〇三節二
シ	三一〇	七三 羅〇三節二
ス	三一〇	七四 羅〇三節二
セ	三一〇	七五 羅〇三節二
ソ	三一〇	七六 羅〇三節二
タ	三一〇	七七 羅〇三節二
チ	三一〇	七八 羅〇三節二
リ	三一〇	七九 羅〇三節二
ル	三一〇	八〇 羅〇三節二
レ	三一〇	八一 羅〇三節二
ヌ	三一〇	八二 羅〇三節二
フ	三一〇	八三 羅〇三節二
ク	三一〇	八四 羅〇三節二
コ	三一〇	八五 羅〇三節二
サ	三一〇	八六 羅〇三節二
シ	三一〇	八七 羅〇三節二
ス	三一〇	八八 羅〇三節二
セ	三一〇	八九 羅〇三節二
ソ	三一〇	九〇 羅〇三節二
タ	三一〇	九一 羅〇三節二
チ	三一〇	九二 羅〇三節二
リ	三一〇	九三 羅〇三節二
ル	三一〇	九四 羅〇三節二
レ	三一〇	九五 羅〇三節二
ヌ	三一〇	九六 羅〇三節二
フ	三一〇	九七 羅〇三節二
ク	三一〇	九八 羅〇三節二
コ	三一〇	九九 羅〇三節二
サ	三一〇	一〇〇 羅〇三節二

新約全書使徒ペテロ後書

第一章 自一至九節

我々の神と救主イエスキリストの僕たるシモンペテロが、我々の神と救主イエスキリストの義に由りて我々が受し所と同一實を信仰の道を受し者に書し、

贈るに願くは、神と我々の主イエスを識に因りて、爾曹に恩寵と本康の増んを贈るに願くは、神と我々の主イエスを識に因りて、我々の神と救主イエスキリストの義に由りて我々が受し所と同一實を信仰の道を受し者に書し、

是れらに榮と徳を以て我々を召し給ひし者、我々に由りて、我々の神と救主イエスキリストの義に由りて我々が受し所と同一實を信仰の道を受し者に書し、

徳に因りて至大なる貴き約束を我々に予へ給へり、此の爾曹をして此約束に由りて世に在る所の愆の取壊を脱かれ、神の性質を有しめ、爲め、是故に爾曹勤て信仰に徳を加へ、徳に智識を加へ、智識に擧節を加へ、擧節に忍耐を加へ、忍耐に敬虔を加へ、敬虔に兄弟の睦を加へ、兄弟の睦に愛を加へ、

此等のもの若きなら、衷に在りて、爾曹に時を以て、爾曹に時を以て、

スキリストを識こそ怠ることなく、又實を結ぶること無に至らん、此等

のもの、我々の神と救主イエスキリストの義に由りて我々が受し所と同一實を信仰の道を受し者に書し、

新約全書使徒彼得前書終

四	諸君の	彼得後書三章、四章十五節
五	列祖の	彼得後書三章、四章十六節
六	の言ふ	彼得後書三章、四章十七節
七	に淹れ	彼得後書三章、四章十八節
八	之を火	彼得後書三章、四章十九節
九	する者	彼得後書三章、四章二十節
十	て我儕	彼得後書三章、四章二十一節
十一	物みな	彼得後書三章、四章二十二節
十二	れを速	彼得後書三章、四章二十三節
十三	神の口	彼得後書三章、四章二十四節

諸君のいであらうに、主の約束し給ひし其臨る何處に在や
 列祖の寝しより以來すべての物開闢の始と變ること無と云ん
 の言ふ由て上古天あり地あり水より出かつ水に由て古の世水
 に淹れて滅たる事を知を欲せず、われ神の其言を以て今の天と地を普へ
 之を火にて焚ん爲に神を敬らざる人を審判する論亡の日まで存せり、我
 する者、爾曹の一事を知ざる可らず、主に於て一日の千年の如く、千年
 一日の如し、主の約束し給ひし所を成に運き、或人の運しと意ふが
 如くに非ず、一人の亡ぶるをも欲み給ひ、衆人の悔改に至らんと欲み
 て我儕を永く忍び給ふ也、然る主の日の來ること盜の夜きたるが如なら
 ん、其日に天大なる響ありて、さり體質とて、く焚毀れ地と其中にある
 物みな焚盡ん、斯の如く諸のもの鎔されん、然る爾曹神の日の來るを待て
 れを速やかにせんことを務むかに、禦行をなし、神を敬ふことを爲べき、平
 神の口にて天焚毀れ、體質焚盡ん、然る我儕の其約束に因て新しき天と新

十四	しき地	彼得後書三章、四章二十五節
十五	かく疵	彼得後書三章、四章二十六節
十六	語たり	彼得後書三章、四章二十七節
十七	聖書を	彼得後書三章、四章二十八節
十八	ぢめ之	彼得後書三章、四章二十九節
十九	ちら益	彼得後書三章、四章三十節
二十	とを務	彼得後書三章、四章三十一節

しき地を望み待り、義の中在愛する者、爾曹すべに之を望み待り、汚
 かく疵なく、主の前に安然に在んことを務む、且われらの主の我儕を永く
 恐ひ給ふ、我儕の救となるを知べし、我儕の愛する兄弟、パウロも其賊られ
 し智慧に循ひ、曾て此事を爾曹に書贈れり、去彼の凡の書にも、此事に就て
 語たり、彼の書の中に、難明とて、ろわり無學なる者、心の堅らざる者、他
 聖書を強解が如く、之をも強解て自ら取亡に至るなり、愛する者、爾曹預
 ぢめ之を知り、憚り、悪者の迷謬に誘れて、其堅き心を失ふこと勿れ、八
 ちら益、我儕の主なる救主、イエスキリストを知んことを、益の恩恵を知て
 とを務むべし、願く、榮光、今も後も、彼に歸して、窮なからんことを、ア